

**FMC**

重要害虫の加害、即効ストップ。  
美しい収穫へ。



葉のすみずみまで浸達、高い効果を素早く発揮！  
葉裏や作物内部に侵入、加害する害虫も、取りこぼさない！

主な適用害虫



\*1 提供: 柴尾学氏 \*2 原図提供: 徳丸晋虫氏(京都府農林水産技術センター)



ジアミド剤のプロ **FMC** の卓効成分  
シアントラニリプロール(通称:サイアジビル®)を、**10.3%**高配合!



MIC 野菜散布用殺虫剤  
**ベネビア® OD**

powered by  
**CYAZYPYR®**  
ACTIVE INGREDIENT



- 特長 1** 葉裏のすみずみまでしっかり浸達！  
作物内部に侵入、加害する害虫も、取りこぼさない！
- 特長 2** 1成分で幅広い害虫に高い効果！万全ローテーションの要になります。
- 特長 3** 長期残効で、大事な生育期、収穫期を守り切る！
- 特長 4** 効かなきゃ困る、重要害虫の産卵、吸汁・摂食、食入・食害を、  
害虫死を待たず**即効ストップ**！害虫による**ウイルス媒介も抑制\***！
- 特長 5** ミツバチ・マルハナバチ(散布翌日の放飼が可能)や天敵にも安全。混用例も豊富です！

詳しい混用例はこちらから↓



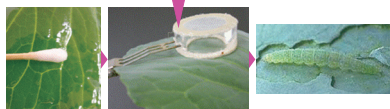
\*タバココナジラミによる、トマト黄化葉巻病、ミナミキイロアザミウマによる、きゅうり/メロン黄化えそ病

**葉表から葉裏へしっかり浸達**

コナガの例(キャベツ葉)

葉裏のコナガ幼虫に対して優れた効果を示します。葉裏の散布ムラがあっても浸達性により葉裏の害虫も防除できます。

葉裏を食べさせる

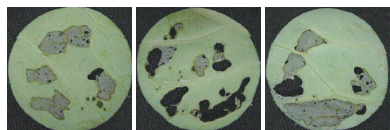


葉の上のみ  
に処理  
1日後:葉の下面のみ  
にコナガ2齢幼虫  
を加害させた  
5日後に評価

■ベネビア<sup>®</sup>OD

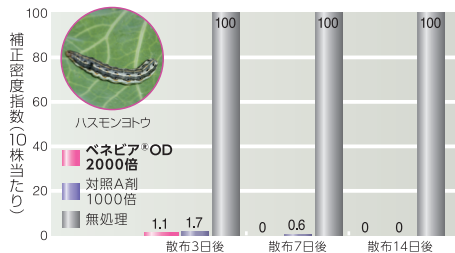


■無処理



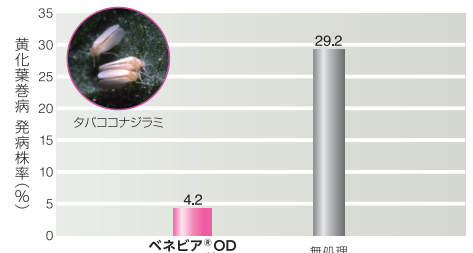
2008年 米国デラウェア州デュポン社スタインハスケル研究所

●キャベツ/ハスモンヨトウに対する効果



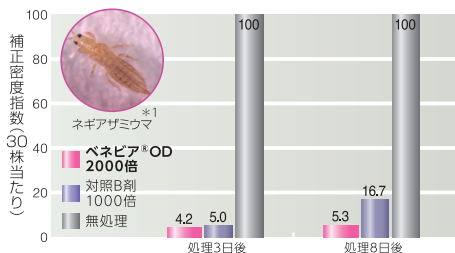
2009年 香川県農業試験場 病害虫防除所  
【試験概要】◎品種:新霜 ◎区制:1区 4.5m<sup>2</sup> 20株 3連制 ◎発生程度:少発生(散生) ◎定植:9月10日 ◎処理日:10月16日 ◎処理方法:210g/10aを再掛式噴霧器で葉裏に全面散布。◎調査方法:各調査日に葉裏に寄生するハスモンヨトウ幼虫を若齢、中齢、老齢の別に各区10株について計数。◎考察:本剤は対照薬剤と比較して、同等の効果が認められ、無処理と比較して高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。葉害は認められなかった。

●トマト黄化葉巻病 発病株率



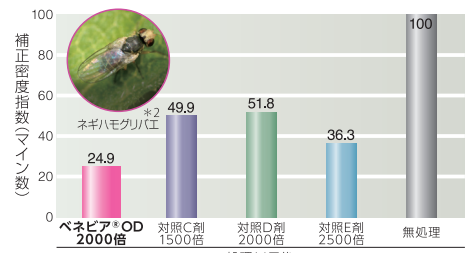
2014年 熊本県農業研究センター内ガラスハウス  
【試験概要】◎品種:ムカ409 ◎対象害虫:タバココナジラミ(リバイオタイプD) ◎発生量:多発生(罹病株を設置) ◎区制:1区6株(3複葉/株)3反復 ◎播種:2月27日 ◎定植:4月15日 ◎処理日:5月9日、5月16日、5月22日 計3回 ◎調査日:最終散布15日後 ◎調査方法:トマト黄化葉巻病(TYLCLV)の発病株数について全株調査した。

●ねぎ/ネギアザミウマに対する効果



2010年 鳥取県農業総合研究所 園芸試験場  
【試験概要】◎品種:吉蔵 ◎定植:5月7日 ◎区制:1区 4.8m<sup>2</sup> 240株 3区制 ◎処理日:6月22日 ◎発生程度:中発生 ◎処理方法:動力式噴霧器で200g/10aの薬液を散布。◎調査方法:各区とも1区3ヶ所、計30株を選び、寄生する成幼虫数を調査。◎考察:本剤は対照薬剤と比較して効果が高く、無処理と比較して効果は認められることから、実用性は高いと考えられる。葉害は認められなかった。\*1 提供:築尾宇氏

●ネギハモグリバエ バイオタイプB(B系統)にも、高い効果



2019年 長野県野菜花き試験場  
【試験概要】◎品種:夏陽(ワ) ◎定植:4月22日 ◎処理日:7月8日 ◎発生程度:多発生(自然発生) ◎処理方法:規定の濃度に希釈した薬液を、背負い型エンジン式動力噴霧器を用いて10aあたり200g相当を散布。◎調査方法:各区中央付近の連房する10株をマージし、上位3葉について肉眼でネギハモグリバエのマイミを計数。◎考察:ベネビア<sup>®</sup>ODはネギハモグリバエ バイオタイプB(B系統)防除に有効と考えられた。\*2 原図提供:徳丸晋忠氏(京都府農業生産技術センター)

■適用害虫と使用方法

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロロールを含む農薬の総使用回数
キャベツ	コナガ、アオムシ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ、ハイマダラノメイガ、ウババエ、オオタバコガ	2000~4000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は3回以内)
	アザミウマ類、アブラムシ類	2000倍					
はくさい	コナガ、アオムシ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ、ハイマダラノメイガ	2000~4000倍					
	アブラムシ類、キスジノミハムシ	2000倍					
だいこん	コナガ、アオムシ、ハイマダラノメイガ、カブラハバチ、ダイコンサルハムシ	2000~4000倍					
	アブラムシ類、ハモグリバエ類、キスジノミハムシ	2000倍					
	ヨトウムシ	4000倍					
ブロッコリー	アオムシ、ハスモンヨトウ、コナガ	2000~4000倍					
トマト	アザミウマ類、アブラムシ類	2000倍					
	オオタバコガ	2000~4000倍					
ミニトマト	アブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類、ハモグリバエ類	2000倍					
きゅうり	アブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類、ハモグリバエ類、ウリノメイガ	2000倍					
レタス	オオタバコガ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ	2000~4000倍					
	ハモグリバエ類、アブラムシ類	2000倍					
非結球レタス	アブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類	2000倍					
	ハスモンヨトウ	2000~4000倍					
いちご	シロイチモジヨトウ、アザミウマ類、ハモグリバエ類	2000倍					
	シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ、ハモグリバエ類	2000~4000倍					
たまねぎ	アザミウマ類	2000~4000倍					
	シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ、ハモグリバエ類	2000~4000倍					
かんしょ	ハスモンヨトウ、ナカシロシタバ、アリモドキゾウムシ、イモゾウムシ、ヨツモンカメノコハムシ	4000倍	収穫7日前まで				

その他の適用作物:ピーマン、ししとう、アスパラガス、オクラ、えだまめ、だいず、さやいんげん、かぼちゃ、にんにく、やまのいも、ばれいしょ、にんじん、未成熟とうもろこし、たばこ 2021年11月現在

▲使用の際の注意事項(抜粋) ●やむを得ず、他の薬剤と混用する場合には、事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。●アスパラガスに使用する場合、銅剤との混用は薬害を生じるおそれがあるので、混用しないでください。●きゅうりに使用する場合、TPNを含む農薬との混用は薬害を生じるおそれがあるので、混用しないでください。●トマト及びミニトマトに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、以下のことに注意してください。①アゾキシストロピンを含む農薬との混用はしないでください。②アゾキシストロピンを含む農薬を散布した場合には、散布後2週間以上間隔をあけて本剤を使用してください。●はくさいに使用する場合、展着剤を加用すると薬害を生じる場合があるので、加用に当たっては事前にその適否を確認してください。

●ラベルをよく読んでください。 ●記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。 ●空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。 ●防除日誌を記帳しましょう。 ©2021 FMC Corporation. All Right Reserved. FMC、FMCロゴ、®を付した商標は、FMC Corporationまたはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です。 BNV1003G